



NIPPON BEARING

11月30日付 日本経済新聞広告 解答と解説

【問題】食とITが融合するフードテック。今後の市場規模は？

- ① 7兆円 ② 70兆円 ③ 700兆円

【答え】 ③ 700兆円

【解説】

フードテックとは、フードとテクノロジーを融合させた言葉で、《食に関する最先端技術》のことです。今なぜ、フードテックが注目されているのでしょうか？

現在、78億7500万人の世界の人口は、2050年には97億人を超えることが予測されています。人口の増加により増大する食料需要。中でも、世界的にタンパク質の需要増加が見込まれます。しかし、地球規模での環境変化やエネルギー問題など、食料を安定供給するために必要な環境は、年々悪化の一途をたどっております。

そこで注目されているのが、食に関する最先端技術《フードテック》です。

私たちが食べている主なタンパク質は、豆腐・豆類など植物性のものと、肉・魚・卵・乳製品など動物性のものがあります。

フードテックの分野のひとつに、これまでとは異なる原料からタンパク質を得る方法が考えだされています。例えば、昆虫食や植物肉などの代替タンパク質です。

代替タンパク質のメリットは生産するものによりさまざまですが、少ないエネルギーで生産できる・季節を考慮せず一年中生産できる・狭い場所でも生産できる等々、これまでの課題を解決できるテクノロジーが考案されています。

また、新たな食糧開発のみならず、既存の食料生産の効率化を図ることや、食品ロスを削減する技術などもフードテックのひとつです。

フードテックの分野はさまざまで、その領域は幅広く、今後益々広がっていく可能性があります。意外なところにも、ビジネスチャンスが潜んでいるかも知れませんね。

※「フードテック等を活用した持続可能な産業育成」農林水産省 Web サイト

(<https://www.maff.go.jp/j/kanbo/foodtech/kenkyukai.html>) 参考

【企画・協力：榊学研メソッド】